

ツミの子育て、勝手に見たままの記

夫婦でのんびり鳥撮りの記

第一章 抱卵そして誕生

第1部 出遭い

真夏の暑さを避けて、早朝の里山を目指したのは7月の10日、自転車に乗り、里山に向うペダルを踏む足が止まったのは「キィー」と言う鳴き声に思わずブレーキを掛けた時だった！ 夏の里山にキビタキ、サンコウチョウを探して毎日通う道すがら、普段は何気なく通りすぎる金網の塀際に並ぶ桜の木、その一本の太い枝に止まる影一つ、自転車に乗ったままカメラのレンズの蓋を外してその影に向け焦点を合わせてシャッターを押す！「うん・・・ツミ？」慌ててもう1枚と2度シャッターを押した時、スーと上に飛んだ・・・「巢？」今度はユックリと今撮った画像を見るとツミのメスのようだ、更に飛んだ方向に目をやるとまだ鳥がいる気配に自転車を傍らに止めて、ゆっくりと桜の木の上を目で探す、と、「あった！あれか！」なんとも見えにくい場所に木の枝を組んだツミの巣を見つけ、ファインダー越しに巣の中を探すと、先ほどのツミの頭が見えた！「抱卵中？」道路を行ったり来たりして確認すると、巣が見えるのは僅かに2箇所、更に見えるポイントは1m位の範囲、少しずれると木の葉に隠れてしまうのも確認して、Uターンして帰宅、帰るや否や家内に話して、撮った画像（3枚だけだったけど）を見せると家内も興奮して、「早く見に行こう！」。

こうして思いもかけない市街のそれも家から直ぐ近くで、日本で最小の鷹ツミと40日を越す「ツミの子育て、勝手に見たまま記」の始まりとなりました。



正直なところ、私達は野鳥を撮り始めてやっと4年目を迎えたばかり、専門家でもありませんので、ツミの生態など知る由も無いところでしたが、今回の出遭いで素人目ですが色々と発見もできましたので、記録とか観察とか難しい記事は抜きにして、その子育ての見たままを書いて見ました。

ですから素人目から見た“野鳥の子育て観察日記”としてさらりと読み流して下さるよう、あらかじめお断りさせていただきます。

ちなみに私達夫婦の役割分担は、ビデオ撮りは家内、カメラ及びビデオの編集など面倒なことは私となっております。

ちなみに使った機材は、Canon デジタル一眼レフ 60D+EF400mmF5.6Lと Victor の光学40倍デジタルビデオカメラを使っております。

第2部 抱卵

10日の出遭いから、卵を抱き始めて幾日なのかな？

この疑問は、雛が孵っていない状態では判らないので、最初はいつ雛が生まれるのかとその事ばかり気になっていた。

10日に撮った写真から母親が卵を抱いていることは判りましたので、観察する環境について考えてみた結果、まず観察（カメラ・ビデオ撮影）場所については、道路際からしか巣が見えないので、一般道路（道幅 6.5M（実測値）に下水溝蓋 37cm×2）に民家の壁にへばりついていたの撮影しかない状況、抱卵中は 1 日 10 分程、巣を時々確認する程度で、長時間居ることは有りませんでした。親鷹や雛が見える頃には、1 日 1 時間～2 時間程度で安全性を確保、更にバス路線でもあり交通量も少なくないので、人が集まることの危険を考慮して、場所は非公開、その後ご近所で散歩されている方々には、随時お話をし理解していただきながら、鳥を撮りたい鳥友には、特定の条件の下で私が 1 日 1 人をご案内することでご協力をお願いしました。（但し、雛がある程度育ってからの話です）

7 月 10 日から毎日朝と夕方それぞれ 10 分程、巣の中を注意して見ていましたが、15 日までは、いつもツミの母親が巣の中で卵を抱いているのを確認していました。

15 日始めてビデオで巣を撮影、映像は母鷹の抱卵中の姿を捉えるも、特に変化はなく、16 日 17 日と日を積み重ねて 18 日、この日は巣の中に父鷹がいるのを映像に収めました。

又、この近くにオナガの営巣を見つけ、この後周辺を注意して見守ると、オナガの巣はこのほかに 2 箇所以上あることを確認しました。

19 日 20 日と変化は見られず、結局、雛の姿は未確認のまま 23 日の朝を迎えた。

第3部 誕生

<2012 年 7 月 23 日>

この日は AM6:15 分に家を出て歩きながら巣のある所の電線に目をやると、「あれは？」そう、この日は電線に母鷹が止まって遠くを見回していました。

「なんだ、どうしたのだろう？」と、巣の様子を見に母鷹の止まっている電線の下を通過・・・「全然気にしていないようだな・・・なんで？」よく判らないままに巣を見上げても変化は見えませんでしたので、家内に連絡して、母鷹を暫く撮ってから一旦家に引き上げる。

この日は午前 3 0 分午後 4 時から 30 分と 2 回とも母鷹は電線の上に止まりっぱなしで、巣にはいなかった。

こんな状態が 27 日まで続き、迎えた 28 日の朝、いつものように AM6 時過ぎに巣の前へ、今日も親鷹は電線でのんびりと羽繕いの真最中かなと思いきや、「母鷹じゃない？……」「おっ、雄だっ！」慌ててカメラを構えるもあつと言う間に彼方へ飛び去った。

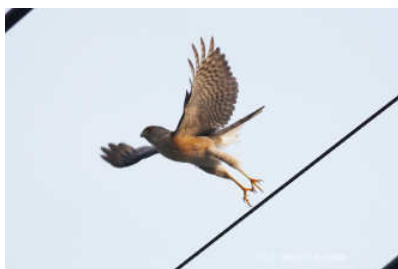
野鳥図鑑によると、ツミのメスは全長 32cm 程、雄は 27cm 程と紹介されていました。

又、成鳥のメスは虹彩が黄色、雄は赤色とありました。

背中中の羽の色もオスは青っぽく、雌は茶色っぽいとありました。

・・・何とか撮れた数少ない父鷹のショット・・・

<2012年 7月 28日>



◇ いつも母鷹しか見えないのに今日は父鷹が！ この日はいつもと違う予感に、朝飯後にもう一度巣を確認に行くと・・・「居たっ！居たっ！居たっ！」
やっと逢えた雛に感激、早速家内に知らせる！



(この日は左と母親の翼の下に1羽が見えた！2羽～？羽)

AM: 11時41分 珍しくも父鷹が巣の中へ！ どうやら餌を運んできた様子！



この日は雛の確認は2羽までしかできなかった。

<2012年 7月 29日>

最近近所の皆さん方が散歩中などに声を掛けてくださる時間が増えてきた。

「何が居るんですか?」「えー鷹が上に止まっていますよ」「えーどこどこ!」

「ほら電線に止まっているのがそうですよ」・・・カメラの液晶画面で撮ったばかりの鷹をお見せすると一様にびっくり「こんな所に?珍しいんですか?」・・・こんな風景をほぼ毎日繰り返し、すっかり顔見知りになり、より詳しい情報をお話して野鳥撮りのご理解を得るようにし、この日から撮った画像を L 版の写真にして、出来る限りご近所の皆さんにはツミのことを知ってもらうようにすることを心掛ける。



この雛ともう1羽を確認



こちらは母鷹

<2012年 7月 30日>

この日も母鷹は電線に、巣の中の雛の姿は見えない。(巣の中で休んでいるのか?) 朝から望遠カメラとビデオを持ってうろうろする怪しい年寄り夫婦、すっかり近所では有名になってしまったようです。

<2012年 7月 31日>今日も2羽の雛しか確認できないが随分と雛は成長している様子。



<2012年8月1日> 3番目を発見！小さな雛が巣の奥に見え隠れするのを見つける。



どうやら 1 番子 2 番子 3 番子と 3 羽の雛が育っているのを確認したが、最初の 2 羽に比べて、今日見つけた雛は、とっても小さい雛で、2 羽の後ろに隠れるようにして居た。

雛はどうやら 7 月 21 日～25 日の間に順番に生まれたようだ！

家内は、この雛達の 1 番子を長男、2 番子を次男、3 番子を末っ子と呼んでいるけれど、1 番と 2 番は雌で 3 番は雄のように思えた。

後日、雛が成長するに従いその大きさから上の 2 羽は雌、末っ子は雄と同定してみた。

<2012年8月2日>

左から 1 番子・末っ子・2 番子（1 番と 2 番の雛は産毛が抜け始めている）

1 番と末っ子でこない大きさが違うのにはビックリした。



2012年8月3 (1番子)



(2番子と末っ子)



◇ 1番子は1日で随分と黒くなりました。 2番子も茶色が目立ちますが末っ子は真っ白。雛の成長の早さは驚くばかりですね、1日ですっかり見違える程に産毛が減ってきました。2012年8月4日 やっと3兄妹が揃った所、上と末っ子の違いが判ります。



<子供と母鷹の食事シーン>

父鷹は、餌をひたすら獲っては巢に運ぶだけで、滅多に見かけることはありませんが、たまに上空を旋回しているのを見かけます。

<2012年8月5日>

3羽の雛も随分と成長しましたが、今日はこんなシーンを目撃しましたので紹介します。

昨日まで給餌していた母親が今日は何故か父鷹が捉えてきた餌を受け取り、巣の中へ落として、飛び出してしまいました。

一番上の子供がもう餌を自分で解体しては食べているのを、横で末っ子が見ているのがファインダーで捉えと、何と末っ子に一番上の子供が給餌しているのが見えました。

鷹の生態はよく判りませんが、家族の認識が本能としてあるのでしょうか？
理由はわかりませんが、見ていてとっても微笑ましいシーンでした。



<この給餌シーンは親子ではなく一番上の子供が末っ子に給餌するシーンです。>

